

日記

小林まもる

五十歳代にかけては

まいにち 嬉しかったこと

六十歳代には

まいにち 悲しかったこと

七十歳にはいつてからは

まいにち

ありがたかったことを

五木寛之は日記にした

そうして自分の

うつ状態を

ぬけだしてきたという

秋から冬へ

このあとたとえば

どんな日記があるだろう

春は他人に余白を残し

きつと「またね」を入れた

さよなら日記にちがいない